

IV. 診療科活動状況

総合内科

1. 概要、特徴、特色

当院では医師臨床研修制度が必修化される前からローテーション研修を行っており、医師研修に力を入れてきました。内科医は「専門医であろうとも総合的基礎力を備えた医師であれ」というポリシーを掲げて研鑽を積んできました。2012 年度に内科病棟のシステム変更を行うことになり、総合内科を立ち上げました。

当院の初期研修医は総合内科から研修をスタートします。医師としての第一歩を踏み出す彼らに基本的な診療スタイルを身につけさせる教育も総合内科の大きな役割です。初期研修委員会を月に 2 回開催し、指導方針の確認を行い、研修医の育成も担っています。

地域医療の現場では、いかなる疾患にも対応できる総合力が求められています。私たち総合内科は「特に専門家に任せるべきものでない限りは、いかなる患者様でも担当する」という態度で診療を行っています。所属する内科医は病院総合内科の専門家（オールラウンダー）としての偏りない高水準の診療を目指しますが、おのおのサブスペシャリティも持っており、その分野では専門診療の責任を担っています。

入院診療では、肺炎や尿路感染症をはじめとする感染症・心不全・糖尿病・脳梗塞等について標準的な医療を提供することはもちろんですが、高齢であることや心理的社会的に複雑な背景から倫理的判断を迫られるケースについての集団的カンファレンスも活発に行っています。

外来診療では他科と協力して 2 次救急までの救急外来・全科当直、一般内科外来、それぞれの専門に応じた外来を担当しています。救急車は年間 3000 件前後搬入されており、日々多彩な救急疾患の診療に当たっています。病棟内に内科 HCU (高

度治療室) があるため、ER からの入院への迅速な対応や急性期の管理も行っています。

2. スタッフ

総合内科科長・内科部長

忍 哲也 日本内科学会総合内科専門医
日本プライマリ・ケア連合学会
認定指導医
日本消化器病学会消化器病専門医
日本消化器内視鏡学会消化器
内視鏡専門医・指導医
日本肝臓学会肝臓専門医

循環器内科科長

金子 史

糖尿病科医長

島村 裕子 日本内科学会認定内科医

救急科科長

守谷 能和 日本内科学会認定内科医
日本消化器内視鏡学会消化器
内視鏡専門医

病棟医長

山田 歩美 日本内科学会認定内科医
日本プライマリ・ケア連合学会
認定家庭医療専門医
日本プライマリ・ケア連合学会
認定指導医

透析室医長

肥田 徹 日本内科学会認定内科医

病棟医長

土佐 素史 日本内科学会総合内科専門医
医員 (後期研修医)

久志本舞衣子 日本内科学会認定内科医
医員 (後期研修医)

佐藤 順紀

家庭医療後期研修プログラムフェロー

佐藤 只空

3. 診療実績

(1) 外来診療

内科急患総合外来、各科専門外来、一般全科当直、
E R担当

(2) 病棟診療

診療実績（診断群分類6桁別、緊急入院、2017年退院患者）182傷病群+包括外22例 *医科点数表Kコード

傷病6桁	傷病名	件数	年齢	在院 日数	救急 搬送	紹介 あり	手術あ り症例*	診断 検査	教育 入院	その他 の加療
	包括外	22	80.7	1.0	22	4	0			22
10040	非外傷性頭蓋内血腫	24	74.3	12.5	11	7	0			24
10060	脳梗塞	121	76.9	17.0	43	33	8			121
10061	一過性脳虚血発作	14	78.4	4.8	9	6	0			14
10080	脳脊髄の感染を伴う炎症	11	55.6	26	5	0	2			11
10230	てんかん	17	66.6	10.9	16	3	0			17
30240	扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭喉頭炎	25	37.4	6.0	3	4	6			25
30400	前庭機能障害	44	70.2	4.4	35	3	0			44
40040	肺の悪性腫瘍	13	74.1	22.3	5	9	1			13
40070	インフルエンザ、ウイルス性肺炎	12	80.7	8.3	6	3	0			12
40080	肺炎等	326	78.5	13.2	130	106	8			326
40081	誤嚥性肺炎	160	84.5	18.5	78	52	12			160
40090	急性気管支炎、急性細気管支炎、下気道感染症（その他）	12	77.7	11.9	6	3	0			12
40100	喘息	50	67.0	10.2	12	7	1			50
40110	間質性肺炎	43	74.2	25.7	8	19	0			43
40120	慢性閉塞性肺疾患	31	76.1	20.0	9	11	1			31
40150	肺・縦隔の感染、膿瘍形成	17	73.5	29.3	5	8	2			17
40151	呼吸器のアスペルギルス症	10	70.4	27.8	6	5	1			10
40200	気胸	24	62.8	15.5	8	6	3			24
50030	急性心筋梗塞（続発性合併症を含む）、再発性心筋梗塞	10	79.7	4.7	8	3	0			10
50070	頻脈性不整脈	18	73.3	9.3	11	3	2			18
50130	心不全	171	80.3	12.7	71	64	10			171
50210	徐脈性不整脈	12	82.5	16.7	4	3	8			12
60020	胃の悪性腫瘍	10	69.4	15.5	2	5	4			10
60060	胆嚢、肝外胆管の悪性腫瘍	10	79.2	16.1	1	6	9			10
60102	穿孔または膿瘍を伴わない憩室性疾患	30	62.4	8.4	6	5	11			30
60130	食道、胃、十二指腸、他腸の炎症（その他良性疾患）	31	74.2	10.4	10	7	13			31
60140	胃十二指腸潰瘍、胃憩室症、幽門狭窄（穿孔を伴わないもの）	25	64.2	8.7	12	7	16			25
60210	ヘルニアの記載のない腸閉塞	22	72.3	12.9	11	5	2			22
60340	胆管（肝内外）結石、胆管炎	31	76.3	11.6	14	10	22			31
60350	急性膵炎	14	54	11.6	4	5	6			14
80011	急性膿皮症	37	68.8	12.3	22	7	1			37
100040	糖尿病性ケトアシドーシス、非ケトン昏睡	10	42.6	6.7	7	2	0			10
100380	体液量減少症	17	82.4	12.6	10	4	0			17
100391	低カリウム血症	18	63.7	13.3	11	3	0			18
100393	その他の体液・電解質・酸塩基平衡障害	24	71.8	8.8	13	6	1			24
11022x	男性生殖器官疾患	10	70.2	11.1	3	4	0			10
110260	ネフローゼ症候群	10	76.1	23	0	6	1			10
110280	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全	22	71.1	17.3	7	9	7	1		21
110290	急性腎不全	27	77.6	14.9	14	12	1			27
110310	腎臓または尿路の感染症	164	77.5	12.3	70	40	3			164

130090	貧血 (その他)	16	79.6	9.1	2	8	10			16
150010	ウイルス性腸炎	22	56.1	6.2	6	10	0			22
160100	頭蓋・頭蓋内損傷	13	72.7	7.9	9	2	2			13
161070	薬物中毒 (その他の中毒)	16	46.5	3.8	14	2	0			16
180010	敗血症	23	81.7	20.7	13	7	3			23
180030	その他の感染症 (真菌を除く)	15	70.3	10.1	4	7	0			15
180040	手術・処置等の合併症	12	65.8	6.8	3	5	4			12
	その他の傷病群	411			171	121	72	1	1	409
	計	2227	73.8	13.6	950	667	253	2	1	2224

循環器内科

1. 概要、特徴、特色

当院では高血圧症・虚血性心疾患（狭心症など）・不整脈・心不全・弁膜症などを中心に循環器疾患全般にわたって診療を行っています。

外来では心電図検査・胸部レントゲン検査・心臓超音波検査・ホルター心電図検査・トレッドミル運動負荷心電図検査などを行い、心臓病の早期発見に努めます。

狭心症などの虚血性心疾患が疑われる場合は、診断の精度を高めるために、心臓カテーテル検査（通常2泊3日入院）を行います。ほとんどの症例で体に負担が少ない手首からの心臓カテーテル検査を行っています。また、入院せずに外来で精密検査を行うことができるように、心臓冠動脈CT検査を導入しています。

心臓カテーテル検査などで冠動脈の狭窄が発見された場合は心臓カテーテル治療（経皮的冠動脈ステント留置術など）を行っています。バルーンを用いて血管の狭窄を拡張したり、金属でできた金網（ステント）を植え込む治療を行います。心臓カテーテル検査や治療では、クリニカルパスを用いて、安全な検査・治療に努めています。

不整脈では、ペースメーカー手術も行っています。退院後はペースメーカー外来（予約制）で定期的に術後の経過をみせていただいています。

心臓病の予防も重要な分野として、医師・看護師・薬剤師・栄養士・リハビリなどを含めて取り組んでいます。

また、心臓病を悪化させる原因として喫煙や睡眠時無呼吸症候群などがあり、禁煙外来や息いき外来（睡眠時無呼吸症候群）とも連携をとって、診療を行っています。

2. スタッフ

副院長 福庭 勲 日本内科学会認定内科医
日本循環器学会認定循環器
専門医

科長 金子 史

3. 診療実績

（1）外来診療

主たる疾患：高血圧・心不全・虚血性心疾患・不整脈・弁膜症・心筋症・閉塞性動脈硬化症など

手術適応症例は心臓外科外来（非常勤）にて診療

ペースメーカー外来（月1回）

（2）入院治療

次頁参照

（3）検査

次頁参照

（4）治療

1) 経皮的冠動脈ステント留置術 20 例／形成術 2 例

〈治療内訳〉

病変部位（重複含む）：LMT 1 例、LAD 15 例、LCX 1 例、RCA 5 例、ISR 病変：1 例、（LAD 1 例）

2) 下肢血管拡張術 16 例

〈治療内訳〉

病変部位（重複含む）：CIA 6 例、EIA 2 例、SFA 8 例、CTO 病変 2 例

3) 鎖骨下動脈拡張術 1 例

4) ペースメーカー移植術 15 例

不整脈：完全房室ブロック 4 例（DDD 4 例）
高度房室ブロック 2 例（VVI 2 例）

洞不全症候群 5 例（DDD 1 例、VVI 4 例）
心房細動 4 例（VVI 4 例）

5) ペースメーカー交換術 6 例

6) 下大静脈フィルター留置 1 例

診療実績 (診断群分類 6 桁別、2017 年退院患者)

*医科点数表 K コード

傷病 6 桁	傷病名	件数	年齢	在院 日数	救急 搬送	紹介 あり	手術あ り症例*	診断 検査	計画的繰り 返し入院	その他 の加療
50030	急性心筋梗塞 (続発性合併症を含む)、再発性心筋梗塞	12	80.6	5.3	8	4	0			12
50050	狭心症、慢性虚血性心疾患	146	71.0	3.7	2	36	21	116		30
50070	頻脈性不整脈	22	74.0	9.3	11	6	5	1		21
50080	弁膜症 (連合弁膜症を含む)	11	81.0	11.5	1	4	1	4		7
50090	心内膜炎	5	72.4	32	2	3	1			5
50110	急性心膜炎	1	47.0	6	0	0	0			1
50130	心不全	179	80.0	12.9	71	70	10			179
50140	高血圧性疾患	4	68.3	7.3	2	1	0			4
50161	解離性大動脈瘤	2	83.5	9.5	2	0	0			2
50163	非破裂性大動脈瘤、腸骨動脈瘤	1	81.0	19	0	1	0			1
50170	閉塞性動脈疾患	54	73.4	7.9	2	22	21	28		26
50180	静脈・リンパ管疾患	8	78.1	19.9	2	2	2			8
50190	肺塞栓症	7	76.9	11.7	3	2	0			7
50200	循環器疾患 (その他)	2	79.0	3.5	0	0	1	1		1
50210	徐脈性不整脈	22	81.6	13.4	4	8	18		2	20
50340	その他の循環器の障害	2	72.0	4.5	0	1	1	1		1
	計	478	76.0	9.3	110	160	81	151	2	325

検査及び処置名	件数
経皮的冠動脈ステント留置術 その他のもの	22
ペースメーカー移植術 経静脈電極の場合	14
ペースメーカー交換術	6
四肢の血管拡張術・血栓除去術	17
経皮的シャント拡張術・血栓除去術	15
下大静脈フィルター留置術	1
U C G	3435
ホルター心電図	1003
トレッドミル	229
経食道エコー	16
心臓 C T	198
体内ペーシング	26
体外ペーシング	17
P C I (IVUS)	33

呼吸器内科

1. 概要、特徴、特色

人口10万対医師数の少ない埼玉県において、呼吸器診療を専らとする医師は極めて少ない状況です。しかし、肺がんを始めとした呼吸器疾患は減少するどころか多くは増加しているのが現状です。そこで当院の立地している東浦和駅周辺地域において、地域の中核病院たるべく呼吸器科領域を幅広く診療しています。一般的な肺炎診療から、非結核性抗酸菌症や排菌のない結核症などといった感染性疾患や、慢性閉塞性肺疾患・気管支喘息といった気道疾患、間質性肺疾患、肺がんなどに対する診療を外来・病棟で展開しています。

当院呼吸器外科とも連携を取り、肺がん手術のみならず、気胸や膿胸などといった炎症性疾患、胸腔鏡下肺生検なども依頼しています。

また、当院呼吸器内科の特色の1つはコメディカルスタッフとの協力です。慢性閉塞性肺疾患患者が中心ですが、リハビリテーション部門とも連携して外来呼吸リハビリテーションを行っています。

年に1回、地域住民に向けて閉塞性肺疾患あるいは気管支喘息について講習会を開催し、積極的に地域住民の健康活動を啓蒙することを志しています。

日本呼吸器学会認定施設

2. スタッフ

科長

原澤 慶次 日本内科学会認定内科医
I C D（感染制御医師）

医員

市川 篤 日本呼吸器学会呼吸器専門医・
指導医

日本内科学会認定内科医

日本プライマリ・ケア連合学会

認定指導医

医員

草野 賢次 I C D（感染制御医師）

日本内科学会認定内科医

3. 診療実績

（1）外来診療

常勤3名ならびに非常勤医師4名で予約外来を行っています。

2012年から始めた慢性閉塞性肺疾患の患者を中心とした2ヵ月間の外来呼吸リハビリテーションを継続して実施し、リハビリ部門だけでなく栄養士や薬剤師なども含め多職種で患者の病状維持に努めています。今後もしリハビリテーション部門と連携し、拡充していく予定です。

（2）検査・手術

病棟での経皮的気管切開術を行っています。2017年は6件の手術を行いました。

気管支鏡検査は原則入院とした上で施行しており、2017年には84件の実績があります。また、局所麻酔下胸腔鏡検査にも取り組んでいます。原因不明胸水の診断目的などに有用であり、今後も積極的に行いたいと考えています。

（3）病棟診療

常勤医師2名で担当しています。肺炎や慢性閉塞性肺疾患・気管支喘息などの気道疾患、間質性肺炎、肺がんなどを扱っています（次頁参照）。

4. 教育・研修・研究活動

（1）教育・研修

1) 日本呼吸器学会認定施設として、呼吸器内科志望の後期研修医に対する教育・研修プログラムを展開しています。現在、後期研修医1名がプログラムに沿って研修中です。研修の一環として、他院呼吸器内科に1年間の外部研修を行うことを必須としています。

- 2) 院内での研修のために、週 1 回の割合で多職種合同の病棟カンファレンスを行い、複数の視点でより良い診療を行うことを目指しています。
- 3) 週に 1 回、呼吸器外科との合同カンファレンスを行い、手術症例のみならず幅広い症例の検討を行っています。

診療実績 (診断群分類 6 桁別、2017 年退院患者)

*医科点数表 K コード

傷病 6 桁	傷病名	件数	年齢	在院 日数	救急 搬送	紹介 あり	手術 あり 症例*	診断 検査	計画的 繰り返し 入院	その他 の加療
40040	肺の悪性腫瘍	86	71.0	9.7	5	42	4	36	31	19
40050	胸壁腫瘍、胸膜腫瘍	1	61.0	14	0	0	0			1
40070	インフルエンザ、ウイルス性肺炎	12	80.7	8.3	6	3	0			12
40080	肺炎等	330	78.5	13.2	130	108	8			330
40081	誤嚥性肺炎	160	84.5	18.5	78	52	12			160
40090	急性気管支炎、急性細気管支炎、下気道感染症 (その他)	13	77.4	11.2	6	3	0			13
40100	喘息	51	67.5	10.2	12	8	1			51
40110	間質性肺炎	54	74.9	23.4	8	26	1	1		53
40120	慢性閉塞性肺疾患	35	76.3	19.8	9	14	1			35
40130	呼吸不全 (その他)	2	94.0	1	1	0	0		1	1
40140	気道出血 (その他)	3	73.3	12	1	0	1			3
40150	肺・縦隔の感染、膿瘍形成	19	72.8	30.4	5	8	3			19
40151	呼吸器のアスペルギルス症	11	71.0	26.3	6	5	1			11
40160	呼吸器の結核	8	78.9	19.6	1	1	0			8
40170	抗酸菌関連疾患 (肺結核以外)	8	70.5	6.1	1	2	1	4		4
40190	胸水、胸膜の疾患 (その他)	8	66.1	10.1	2	4	0			8
40200	気胸	24	62.8	15.5	8	6	3			24
40210	気管支拡張症	3	79.7	17.7	1	1	1			3
40250	急性呼吸窮〈促〉迫症候群	1	92.0	2	1	0	0			1
40310	その他の呼吸器の障害	3	81.7	17.7	0	2	0			3
	計	832	77.0	15.1	281	285	37	41	32	759

化学療法	件数
患者数	15
延べ回数	34

処置検査	件数
気管切開術	6
新規人工呼吸器管理	2
胸腔穿刺	92
気管支鏡検査	84
在宅酸素療法新規導入	102

消化器内科

1. 概要、特徴、特色

当院消化器内科は、地域に密着した急性期病院の消化器内科としての役割を果たすべく、診療にあたっています。

当院の1次2次を中心とした救急車搬入台数は年間約4,000台に及び、消化管出血や黄疸を主訴とする患者さんも数多く来院するため、救急医療において消化器内科医の果たす役割は大きくなっています。地元の開業医の先生方とも連携し、定期的に地域医療懇談会を開催し、消化器専門科として紹介患者さんの受け入れや、開業医の先生方への逆紹介も積極的に行っています。

消化器内科では上部・下部消化管内視鏡検査、内視鏡的膵胆管造影及びその関連検査、超音波内視鏡検査、治療内視鏡を行っています。大腸ポリープに対する内視鏡的粘膜切除術（EMR）や上部・下部早期がんに対する粘膜下層剥離術（ESD）の件数も年々増加しており、緊急の胆道ドレナージ術（ERCP・PTGBD）にも対応しております。720例の膵石診療の経験を持つ辻忠男医師の指導のもと、慢性膵炎の診療実績は2016年度DCP公開データで156例と全国一位となっており、遠方の大学病院やがんセンターなどからも紹介患者さんを多数受け入れています。

本年は後期研修医として杉山鑑夫医師、医員として天野由紀医師が入職され、緊急内視鏡から内視鏡胃がん検診まで幅広く対応しており、治療内視鏡も増加しております。

消化器専門外来では消化性潰瘍、炎症性腸疾患、肝疾患、消化器がんなどの慢性期管理を行っています。最近はB型慢性肝炎・C型慢性肝炎の治療件数も増えています。

さらに、重症急性膵炎や急性閉塞性化膿性胆管炎などの重症疾患では救急チームと連携し、HC

U管理を行い、潰瘍性大腸炎で血液浄化療法が必要になる場面は透析チームと、進行がんに対しては外科や化学療法チーム・緩和ケアチームと連携し、治療を行っています。化学療法患者は年々増加しており、週1回程度のキャンサーボードを開催しレジメンを検討し、多職種のスタッフで意見を共有し、治療を行っております。

日本消化器内視鏡学会指導施設

日本胆道学会指導施設

日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設

日本消化器病学会認定施設

2. スタッフ

院長

増田 剛 日本内科学会 総合内科専門医
日本消化器内視鏡学会指導医
日本消化器病学会消化器病専門医
日本肝臓学会肝臓専門医

院長補佐

高石 光雄 日本内科学会認定内科医
日本消化器病学会消化器病専門医

副院長

小野未来代 日本内科学会 総合内科専門医
日本消化器内視鏡学会指導医

内科診療部長

辻 忠男 日本内科学会認定内科医
日本超音波医学会認定超音波指導医
日本消化器病学会指導医
日本消化器内視鏡学会指導医
日本胆道学会認定指導医

内科部長・総合内科科長

忍 哲也 日本内科学会総合内科専門医
日本プライマリ・ケア連合学会指導医
日本消化器病学会消化器病専門医
日本消化器内視鏡学会指導医
日本肝臓学会肝臓専門医

救急科科長

守谷 能和 日本内科学会認定内科医
日本消化器内視鏡学会専門医

門医資格取得を目指しています。

病棟医長

久保地美奈子 日本内科学会認定内科医
日本プライマリ・ケア連合学会
認定医
日本消化器病学会消化器病専門医
日本消化器内視鏡学会専門医

消化器内科科長

間野 真也 日本内科学会総合内科専門医
日本消化器病学会消化器病専門医
日本消化管学会胃腸科専門医
日本肝臓学会肝臓専門医
日本消化器内視鏡学会専門医

医員

大石 克己 日本内科学会総合内科専門医
日本消化器内視鏡学会専門医
天野 由紀 日本内科学会総合内科専門医
日本消化器病学会消化器病専門医
日本消化器内視鏡学会専門医

医員

孫 国東 日本内科学会認定内科医
杉山 鑑夫

3. 診療実績

183 頁、184 頁表参照

4. 教育・研修・研究活動

当科では、まず内科医として消化器以外の患者さんの初期対応や判断、治療ができる力量を身に付けることを目標に、一般外来や時間外診療を担っています。そして、上下部内視鏡のスクリーニング検査を確実に実施できるように教育し、E R C P にも積極的に参加しております。後期研修では大腸ポリープ E M R や緊急内視鏡検査も行い、あらゆる処置に対応できるように努めています。

また、各種学会参加や発表も積極的に行い、専

傷病 6桁	傷病名	件数	年齢	在院 日数	救急 搬送	紹介 あり	手術あ り症例*	診断 検査	計画 的繰 り返	その他 の加療
60010	食道の悪性腫瘍（頸部を含む）	5	69.2	10.8	0	1	3	1		4
60020	胃の悪性腫瘍	65	73.8	9.646	3	22	45		11	54
60030	小腸の悪性腫瘍、腹膜の悪性腫瘍	1	75	9	0	0	0			1
60035	結腸（虫垂を含む）の悪性腫瘍	48	70.13	6.396	0	18	28	12	2	34
60040	直腸肛門（直腸S状部から肛門）の悪性腫瘍	12	67.17	7.917	2	4	9		1	11
60050	肝・肝内胆管の悪性腫瘍（続発性を含む）	46	74.41	11	5	23	31	4	1	41
60060	胆嚢、肝外胆管の悪性腫瘍	29	77.14	11.97	2	15	22	1	3	25
06007x	膵臓、脾臓の腫瘍	52	73.04	8	1	23	14	23	4	25
60090	胃の良性腫瘍	21	65.81	4.238	1	6	10	11		10
60100	小腸大腸の良性疾患（良性腫瘍を含む）	427	67.71	2.164	0	112	404	21		406
60102	穿孔または膿瘍を伴わない憩室性疾患	88	67.11	8.023	17	21	21	9		79
60130	食道、胃、十二指腸、他腸の炎症（その他良性疾患）	64	71.39	9.891	20	18	24	1	2	61
60140	胃十二指腸潰瘍、胃憩室症、幽門狭窄（穿孔を伴わないもの）	57	67.12	9.544	31	15	38			57
60141	胃十二指腸潰瘍、胃憩室症、幽門狭窄（穿孔を伴うもの）	1	28	3	0	0	0			1
60180	クローン病等	2	79.5	12.5	1	2	2			2
60185	潰瘍性大腸炎	6	43.17	27.33	0	1	0			6
60190	虚血性腸炎	30	71.07	12.63	9	5	3			30
60210	ヘルニアの記載のない腸閉塞	49	72.86	15.06	17	17	5			49
60230	肛門周囲膿瘍	1	49	14	0	0	1			1
60245	内痔核	1	70	6	0	0	0			1
60270	劇症肝炎、急性肝不全、急性肝炎	7	41.71	8.286	0	1	0			7
60280	アルコール性肝障害	33	56.7	14.52	9	13	8			33
60290	慢性肝炎（慢性C型肝炎を除く）	8	60.38	14.88	0	3	0	4		4
60300	肝硬変（胆汁性肝硬変を含む）	24	71.38	17	7	9	8			24
60310	肝膿瘍（細菌性・寄生虫性疾患を含む）	8	74.25	17.38	4	4	2			8
60320	肝嚢胞	4	74.25	19.75	0	2	1			4
60330	胆嚢疾患（胆嚢結石など）	5	42.8	5.2	2	0	0			5
60335	胆嚢水腫、胆嚢炎等	37	77.08	16.19	16	9	19			37
60340	胆管（肝内外）結石、胆管炎	136	74.6	11.04	36	66	107			136
60350	急性膵炎	71	58.49	14.03	10	35	44			71
60360	慢性膵炎（膵嚢胞を含む）	131	57.37	9.168	2	126	120	3		128
60370	腹膜炎、腹腔内膿瘍（女性生殖器を除く）	9	67.44	11.78	2	5	5			9
60570	その他の消化管の障害	6	61.67	10	1	3	0	1		5
	計	1478	68	6.7	197	576	974	90	24	1364

検査・処置	件数
上部消化管内視鏡検査	6,959
上部（悪性）E S D	48
上部（悪性）E M R	1
上部（良性）E M R	8
下部消化管内視鏡検査	2,174
下部（悪性）E S D	17
下部（悪性）E M R	21
下部（良性）E M R	510
胆道系検査・処置	467
P E G 交換	97
P E G 造設	32
腹部アンギオ	13
その他アンギオ	1
P E I T	2
T A E	29
T A I	1
E I S	4
E V L	6
止血術	15
食道ステント	3
食道拡張	11
肝生検	13
吻合部拡張術	15
穿刺（膿瘍・胆嚢）	40
ラジオ波焼灼	2
超音波内視鏡検査	48
胆道 E S W L	25
砕石 E S W L（一連）	311

B 型肝炎（核酸アナログ治療）	56
C 型慢性肝炎（経口治療）	24

小児科

1. 概要、特徴、特色

当科は小児の common disease を中心に幅広い疾患に対応しています。重症例や疾患によっては高次医療機関へ対応をお願いする場合がありますが、多くの疾患に対応できるよう各医師が専門性も含め研鑽をつんでいます。入院は急性疾患の他、食物経口負荷試験や内分泌負荷試験等の検査入院も行っています。当院産婦人科は分娩数も多く、新生児疾患への対応もしていますが、新生児集中治療室（NICU）を併設していないため、重症な新生児については近隣のNICUへ依頼しています。2017年は近年増加している家庭内の事故や虐待に対応するため小児虐待対策チームを作り活動を開始しました。

当科の特徴として各種の育児支援を積極的に行っています。産前の院内両親学級の講師や祖父母への育児教室、子育ての仲間づくりや育児支援のための子育て教室、看護師・保育士によるベビーマッサージ、栄養士による離乳食教室、ベビールンチを行っています。

2. スタッフ

部長

和泉 桂子 小児科学会認定小児科専門医

科長

荒熊 智宏 小児科学会認定小児科専門医
小児科学会認定指導医
小児神経学会認定小児神経専門医
ICD（感染制御医師）

医長

平澤 薫 小児科学会認定小児科専門医
プライマリ・ケア連合学会認定指導医
プライマリ・ケア認定医

医長

藤田 泰幸 小児科学会認定小児科専門医
小児心身医学会認定医

非常勤

松田文子（月・金曜日）、小堀勝充（アレルギー外来）、斎藤陽子（発達外来）、平井克明（発達外来）、脇田 傑（循環器外来）、中村明夫（腎外来）、計6名の非常勤医師の協力を得て外来を行いました。

3. 診療実績

（1）外来診療

午前に一般外来、午後は専門外来、乳児健診・予防注射を行っています。紹介患者、救急搬入、急患者は時間外も随時対応しています。川口市の小児夜間救急診療事業に2次病院として金曜日を担当しています。

専門外来は、アレルギー・神経・心理・腎臓・循環器・内分泌／生活習慣病外来を開設しています。アレルギーに関しては気管支喘息・アトピー性皮膚炎などへの対応の他、ブリックテストや食物経口負荷試験を外来／入院で実施しています。神経外来は、小児によくあるけいれん性疾患や発達遅滞（障害）を中心に診察しています。心理外来は心身症や不登校などに対応しており、医師による診察、心理発達検査の他、臨床心理士によるカウンセリングも行っています。

乳児健診は多職種（医師、看護師、保育士、管理栄養士）の協力を得て、育児支援に力をいれた形で実施しています。予防接種は同時接種（1回4本まで）や基礎疾患のある児（けいれん発作、アレルギーなど）にも対応しています。

小児科外来患者数 年間 1万7975人（小児科紹介患者数 年間 347人（入院 100人）、川口市小児夜間救急（一次および二次救急）
毎週金曜日 年間 1114人
・乳幼児健診 1ヵ月 522人、3－4ヵ月 377人、6－7ヵ月 343人、9－10ヵ月 239人

1 歳 206 人、1 歳半 371 人

合計 年間 2004 人 (延べ人数)

・予防接種 年間 4389 人 (延べ人数)

(2) 病棟診療

・小児科入院ベッド数 15 床、小児科入院患者数 年間 525 人 (うち新生児室入院 年間 145 人)

・産科分娩数 年間 511 人 (再掲 新生児室入院 年間 145 人)

小児病棟入院 (主病名): 下気道感染症 (気管支炎、細気管支炎、肺炎) 123 (RSV 62、hMPV 14、マイコプラズマ 3)、気管支喘息・喘息性気管支炎 18、上気道感染症 (咽頭炎、クループ症候群、扁桃炎など) 28 人、頸部リンパ節炎 2、伝染性単核症 (EBV) 1、蜂窩織炎 2、インフルエンザ A 3、インフルエンザ B 1、百日咳 1、その他発熱 (原因特定できず) 3、急性胃腸炎 48 (ロタ 22、病原性大腸菌 O1 1、fluB 1)、腸重積 2、便秘 1、急性腹症 1、周期性嘔吐症 11、ケトン性低血糖 6、内分泌負荷試験 4 (低身長 2、先天性甲状腺機能低下 1、肥満 1)、糖原病疑い 1、食物負荷試験 40、アナフィラキシー 8、アトピー性皮膚炎 3、川崎病 17、IgA 血管炎 4、多形滲出性紅斑 5、蕁麻疹 2、伝染性膿痂疹 1、熱性けいれん 32 (うち重積 4)、胃腸炎関連けいれん 1、無熱時けいれん発作 2、脳震盪 1、失神 (起立性調節障害) 1、頭痛 1、身体表現性障害 1、解離性障害 2、尿感染症 6、新生児黄疸 11

(3) 育児支援活動

- ・うぶごえ学級 (院内両親教室): 月 1 回担当。
- ・孫と一緒に広場 (祖父母への育児教室): 年 3 回。
- ・ベビーマッサージ: 看護師・保育士のマッサージ指導および医師による育児相談。月 1 回。
- ・ベビーランチ: 離乳食 (病院が用意する) を食べながら、医師、栄養士と育児相談を行い

ます。月 1 回。

- ・子育て教室: 生後 6 - 12 ヶ月の児を対象に 1 クール 3 回の教室 (医師や各職種の講演やみんなで遊ぶ等) を行い、そこで子育ての仲間づくりもすすめています。年 2 クール (前期/後期) 実施しています。

(4) 外部活動

6 園の園医、2 校の校医を担当しています。市の 3 歳児健診も輪番で担当しています。法人内の川口診療所の依頼により保育園 (1 園) の健診も担当しました。こども保健教室を 1 回実施しました。

4. 教育・研修・研究活動

(1) 教育・研修

- ・日本小児科学会小児科専門医研修施設、日本小児神経学会小児神経専門医研修関連施設。

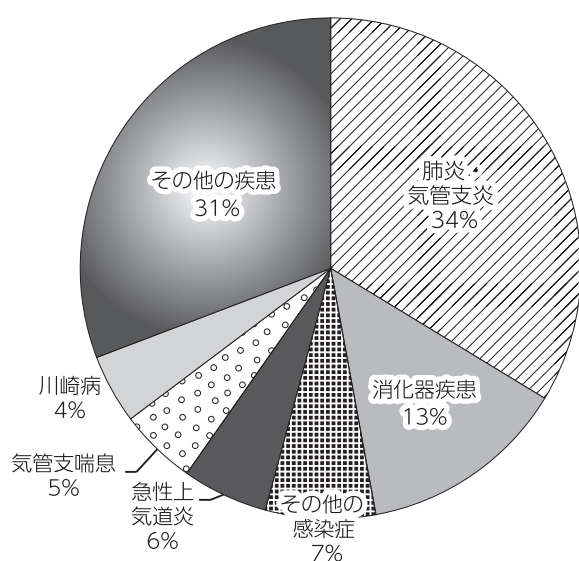
初期研修医 8 名、家庭医後期研修医 2 名が小児科研修を実施しました。カンファレンスは、入院患者の病棟カンファレンス (週 1 回)、乳児健診カンファレンス (週 2 回)、アレルギーカンファレンス (週 1 回)、産婦人科と合同で周産期カンファレンス (月 1 回)、文献抄読会 (週 1 回) を定期的に行っています。

(2) 研究 学会研究会活動 (発表)

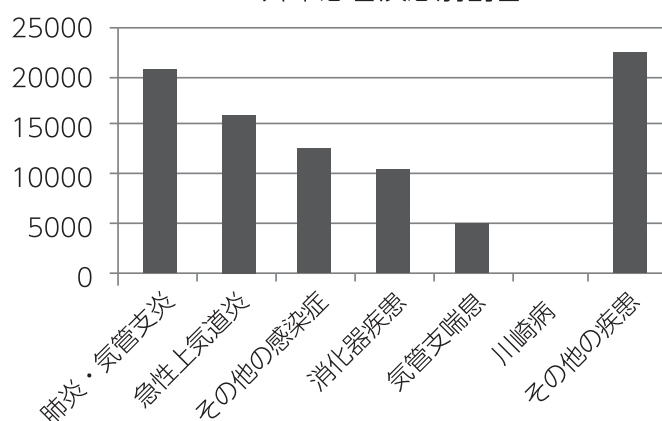
- ・4/1 平澤 薫「Tobacco control class for children can reduced community smoking rate」25th International Conference on Health Promoting Hospitals and Health Services
- ・5/14 荒熊智宏「ヒトメタニューモウイルス感染症の入院と外来症例の比較検討」第 168 回日本小児科学会埼玉地方会
- ・5/27 平澤 薫「過呼吸発作後に低換気を来した症例」第 31 回日本小児救急医学会学術集会

- ・ 7 / 22 荒熊智宏「水痘ワクチン定期接種化による一般病院での水痘患者の変化」 第 55 回埼玉県小児感染免疫懇話会
- ・ 9 / 15 藤田泰幸「これまで当科で行ってきた小児カウンセリングのまとめ」 第 35 回日本小児心身医学会学術集会
- ・ 10 / 14 平澤 薫「小児肥満患児に対する取り組み～定期通院がもたらす効果～」 第 2 回日本 H P H カンファレンス

入院患者主病名割合 (n = 380)



外来患者疾患別割合



外 科

1. 概要、特徴、特色

当院外科は、消化器一般外科を中心に、肺外科、乳腺外科の診療において、地域の患者さんに必要十分の良質で高度な医療を提供すべく、日々の診療に励んでいます。

この数年の年間総手術件数（入院手術）は 700 件弱で推移しており、2017 年は 685 件でした。ここ数年の傾向である肝胆膵分野（胆嚢摘出を除く）の手術数増加は今年も見られ、肝切除が 35 件、膵切除が 15 件でした。その他の手術件数は概ね横ばいでしたが、腸穿孔による腹膜炎手術が 30 件と例年になく多い年でした。

近年、腹腔鏡の適応術式は拡大しつつあります。2017 年の当院での腹腔鏡手術実施割合は胃が 26%、大腸が 48%、肝臓が 43% と、2016 年に比べ増加はみられませんでした。大腸では側方郭清、肝臓では系統的切除と腹腔鏡手術の適応の幅は確実に増加しており、腹腔鏡手術における技術力の向上を反映しているものと考えます。

抗がん剤化学療法の進歩を背景として、発見当初切除不能であったがんに対して、抗がん剤治療を行ってから手術を実施する Conversion surgery ががんの外科治療における現在の Topic の一つです。当院では腫瘍内科医師（非常勤）の協力を得て、このような病態にも積極的に治療を行っています。

地域の急性期医療を守る病院の外科として緊急性の高い疾患に迅速に対応すること、また、埼玉県がん診療指定病院として専門性の高い疾患に対応することが当院外科には求められていると考えます。2018 年 4 月からは、外部研修から帰任する 1 名および後期研修医 1 名が加わり、外科医師総勢 11 名で地域の皆さんからの期待にこたえるべく邁進する所存です。

2. スタッフ

院長補佐

井合 哲 日本外科学会外科指導医
麻酔科標榜医

外科技術部長

市川 辰夫 日本外科学会外科指導医

外科技術部長

長 潔

外科部長

井上 豪 日本外科学会外科専門医

外科技術部長

植田 守 日本外科学会指導医
日本消化器外科学会認定医
日本胸部外科学会認定医
日本がん治療認定医機構暫定教育医

外科医長

浅沼 晃三 日本外科学会外科専門医
日本内科学会認定内科医
日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医
日本呼吸器外科学会呼吸器外科専門医
日本がん治療認定機構がん治療認定医
日本呼吸器学会呼吸器専門医
麻酔科標榜医
消化器外科専門医
消化器がん外科治療認定医

病棟医長

栗原 唯生 日本外科学会外科専門医
日本がん治療認定機構がん治療認定医
I C D（感染制御医師）
日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医
日本肝臓学会肝臓専門医

外科医長

佐野 貴之 日本外科学会外科専門医

日本がん治療認定機構がん治療認定医
日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医

医員（外部研修）

重吉 到 日本外科学会外科専門医

医員

岸本 裕

3. 診療実績

（1）外来診療

外来患者数

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
患者数	1,164	1,201	1,401	1,250	1,251	1,459	1,197
月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	
患者数	1,470	1,377	1,413	1,390	1,295	15,868	

（2）手術

埼玉協同病院外科	2015		2016		2017	
手術実績	手術件数	うち鏡視下	手術件数	うち鏡視下	手術件数	うち鏡視下
入院手術総数（手術室施行）	677	261	656	287	685	282
主な手術						
肺切除	20	10	27	14	18	15
悪性 部分切除	5	2	7	3	6	6
葉切除	9	2	12	3	4	1
良性 部分切除	2	2	1	1	3	3
気胸	4	4	7	7	5	5
その他の胸部手術			3		1	
悪性			1			
良性			2		1	
食道切除	2		5		3	
悪性	2		5		3	
良性						
胃切除	41	9	31	12	38	10
悪性 胃全摘	16	2	6		11	3
幽門側切除	22	4	17	8	21	5
その他	2	2	7	4	4	1
良性 幽門側切除			1			
その他	1	1			2	1
大腸切除	94	45	111	58	96	46
悪性 結腸切除	63	28	69	38	64	32
直腸切除	24	13	29	18	20	13
良性 結腸切除	6	3	12	2	10	1
直腸切除	1	1	1		2	

小腸切除	19	2	9		20	4
悪性	5	1	2		4	2
良性	14	1	7		16	2
その他の手術	250	67	203	57	233	65
ヘルニア手術	158		123		125	
虫垂炎手術	56	55	56	54	53	50
イレウス	25	6	12	1	25	6
うち、小腸・結腸切除（再掲）	(14)	(2)	(6)	(1)	(8)	(3)
腸穿孔・腹膜炎手術	11	6	12	2	30	9
うち、がんによるもの（再掲）			(3)	(1)	(3)	(1)
肝切除	18	2	25	12	35	15
悪性 部分切除および外側区域切除	7	2	16	12	19	12
上記以外の切除	10		8		16	3
良性 部分切除および外側区域切除			1			
その他の切除	1					
膵切除（胃切除に伴うものを除く）	13	2	12	1	15	3
悪性 膵頭十二指腸切除	9		6		7	
膵体尾部切除	2		4		6	1
良性 膵体尾部切除	2	2	2	1	2	2
胆嚢摘出	98	96	125	121	106	105
乳腺	51		42		66	
悪性 乳房切除	18		12		18	
乳房部分切除	27		26		43	
良性 腫瘍摘出	6		4		5	

他院からの紹介	件数	(法人内)
外来	301	(45)
入院（外来後入院含む）	98	(31)

消化器外科学会修練施設	手術難易度
難易度	件数 割合
高難度	47 8.3%
中難度	186 32.9%
低難度	332 58.8%
計	565

4. 教育・研修・研究活動

(1) 教育・研修

当院は、日本外科学会専門医制度修練施設、呼吸器外科学会呼吸器外科専門医合同委員会呼吸器外科専門医制度関連施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設になっています。

(2) 研究活動

・植田 守

「術前化学療法で頸部転移が消失した胸部下部食道腺癌の2例」

第54回埼玉県医学会総会 2月26日

「巨大食道裂孔ヘルニア手術症例の検討」

第71回日本食道学会学術集会 6月15日

・栗原唯生

「化学療法により根治切除可能となった膵頭体部癌の1例」

第30回関越DIF研究会 さいたま 1月28日

「肝動脈合併切除非再建で膵頭十二指腸切除を行った Aberrant S2 肝動脈枝を有する局所進行膵頭体部癌の1例」

第72回日本消化器外科学会総会 7月21日

「絞扼性イレウスの早期診断に有用な因子の検

討」

第 25 回日本消化器関連学会週間 福岡 10 月 13 日

「当院における腹腔鏡下肝切除導入前後の肝切除術短期治療成績の比較」

第 30 回日本内視鏡外科学会 京都 12 月 7 日

・佐野貴之

「一期的切除が困難であったが、化学療法が奏功した大腸悪性リンパ腫（diffuse large B-cell lymphoma）の 2 例」

第 72 回日本消化器外科学会総会 7 月 22 日

「大腸閉塞で発症した、副中結腸動脈を有する下行結腸癌に対して、腹腔鏡下結腸切除を施行した 1 例」

第 79 回日本臨床外科学会総会 11 月 25 日

「馬蹄腎、肝硬変を合併した S 状結腸癌に対して。腹腔鏡下 S 状結腸切除を施行した一例」

第 30 回日本内視鏡外科学会 12 月 9 日

乳腺外科

1. 概要、特徴、特色

日本において女性のがん罹患率で乳がんが 1 位となっており、11 人に一人が乳がん罹患しています（2013 年データ）。また、社会においても家庭においても重要な役割を果たしている 40 歳から 50 歳の年代にもっとも罹患者が増えています。乳がんの治療は手術だけではなく、薬物療法、放射線療法と複合的に行っていくため、通院頻度や金銭面での負担がかかってきます。そこで自宅近くでも安心して治療が受けられるように、当院で乳腺外来を立ち上げ、診療を行っています。

（1）紹介

乳腺疾患に必要な設備を整え、乳腺疾患の精査から治療まで行っています。特に乳がん患者様の診断から治療までかわることにより、精神面のフォローや社会的背景を考慮しながら診療を行えるように、コメディカルとの連携を図っています。

＊当院に放射線治療施設がないため、放射線治療が必要な症例に対しては近医への紹介を行っています。

2. スタッフ

科長 金子 しおり 日本外科学会外科専門医
日本乳癌学会認定医
日本がん治療認定医機構
がん治療認定医

3. 診療実績

（1）検査・手術

次頁表参照

診療実績 (診断群分類 6 桁別、2017 年退院患者)

*医科点数表 K コード

傷病 6 桁	傷病名	件数	年齢	在院 日数	救急 搬送	紹介 あり	手術あ り症例*	計画的 繰り返 し入院	その他 の加療
090010	乳房の悪性腫瘍	97	60.9	5.3	0	20	57	35	62
090020	乳房の良性腫瘍	3	48.3	4.0	0	1	3	0	3
	計	100	60.6	5.27	0	21	60	35	65

検査件数

検査	件数
乳房超音波	2165
乳腺生検	19
乳腺穿刺	140
乳房超音波ガイド下生検	187
USマンモトーム	0
STマンモトーム	5
乳房MRI	106

手術件数

行為名称	件数
乳腺悪性腫瘍手術 (単純乳房切除術 (乳腺全摘術))	1
乳腺悪性腫瘍手術 (乳房切除術 (腋窩鎖骨下部郭清を伴うもの)・胸筋切除を併施しないもの)	3
乳腺悪性腫瘍手術 (乳房切除術 (腋窩部郭清を伴わないもの))	15
乳腺悪性腫瘍手術 (乳房部分切除術 (腋窩部郭清を伴うもの (内視鏡下によるものを含む))	3
乳腺悪性腫瘍手術 (乳房部分切除術 (腋窩部郭清を伴わないもの))	37
乳腺腫瘍摘出術 (長径 5 センチメートル以上)	4
乳腺腫瘍摘出術 (長径 5 センチメートル未満)	1
計	64

4. 教育・研修・研究活動

(1) 教育・研修

病棟カンファレンス	毎週月曜日	入院患者のカンファレンス
乳腺がんカンサード	毎週水曜日	腫瘍内科医を中心に薬物療法の治療方針 (術前、術後、再発) を検討。術式の検討、全身状態のチェックなどを行う。患者対応や緩和ケアなども検討していく。
画像カンファレンス	毎週 1 回	病理医・放射線技師・臨床検査技師とともに病理及び画像検討。
乳腺科診療チーム会議	毎月 1 回	乳腺診療の運営について他職種と検討していく。

(2) 研究

- ①抗がん剤によるサイトリスクマネジメント
- ②タキサン起因性末梢神経障害に対する弾性ス
トッキングによる予防効果の検証

整形外科

1. 概要、特徴、特色

埼玉協同病院の整形外科は地域の基幹病院の一つとしてレベルの高い医療を提供できるよう、今後ますます診療体制を充実させてまいります。

診療体制は仁平部長以下5人の常勤医師と、13人の非常勤医師が診察にあたります。慶應義塾大学からは腫瘍、脊椎、関節外科、上肢の専門医が勤務にあたり、それぞれの専門分野を中心に外来診療・手術を行っております。

2008年10月1日より、人工関節、股関節外科を当病院整形外科のメインテーマとしてかかげ、最新のコンピューター支援手術器械であるナビゲーション手術システムを導入しました。人工関節手術実績は2008年の13件から2017年の601件まで増加が著しく、国内でも有数の症例数となっております。

日本整形外科学会専門医研修認定施設

日本リウマチ学会教育施設

2. スタッフ

部長

仁平高太郎 日本整形外科学会整形外科専門医
日本整形外科学会認定スポーツ医
日本整形外科学会認定リウマチ医
日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医
日本リウマチ学会リウマチ専門医

副部長

桑沢 綾乃 日本整形外科学会整形外科専門医
日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医
日本整形外科学会認定リウマチ医

病棟医長

北村 類 日本整形外科学会整形外科専門医

医長

遠藤 大輔 日本整形外科学会整形外科専門医

医員

楊 宝峰

非常勤

後藤 晋 日本整形外科学会整形外科専門医
日本整形外科学会認定スポーツ医

非常勤

尹 栄淑 日本整形外科学会整形外科専門医

非常勤

朝長 明敏 日本整形外科学会整形外科専門医
日本整形外科学会認定リウマチ医
日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医
日本リウマチ学会リウマチ専門医

非常勤

森岡 秀夫 日本整形外科学会専門医
日本整形外科学会認定リウマチ医
日本リウマチ学会リウマチ専門医
日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医

小粥 博樹 日本整形外科学会専門医
日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医

岡崎 真人 日本整形外科学会整形外科専門医
日本手外科学会専門医

河野美貴子 日本整形外科学会整形外科専門医

日下部 浩 日本整形外科学会整形外科専門医

大橋麻衣子 日本整形外科学会整形外科専門医

前田 悠 日本整形外科学会整形外科専門医

金子 陽介 日本整形外科学会整形外科専門医

金田 和也 日本整形外科学会整形外科専門医

伊賀 隆史

3. 診療実績

195 頁表参照

4. 教育・研修・研究活動

(1) 教育・研修

モーニングカンファレンス (週3回)

病棟カンファレンス (週1回)

(2) 学会発表、論文発表、講演

・桑沢綾乃

「Schanz 骨切り後の THA10 例の検討」、「寛骨
臼回転骨切り術後の人工股関節置換術」

第 47 回日本人工関節学会 2 月 25 日

「人工膝関節手術について」

台湾整形外科学会ランチョンセミナー 4 月 22
日

「Oxford UKA における高圧炭酸ガス洗浄
(CarboJet) を使用したセメントテクニックの
有用性と術後脛骨側 radiolucent line の検討」

JOSKAS 第 42 巻 第 4 号 588 2017 年 5
月

「Bicruciate-retaining TKA (Vanguard XP)
の U-shaped 脛骨トレイ設置位置の検討 TKA-
3D 術前計画ソフト (Zed-Knee) を用いて」

日本人工関節学会誌 第 47 巻 425-426
2017 年 12 月

・楊宝峰

「硬膜内に脱出したガスを有する腰椎椎間板ヘル
ニアの 1 例」

関東整形災害外科学会雑誌 第 48 巻 第 6 号
357-358 2017 年 12 月

(3) テレビ出演

・仁平高太郎

「股関節疾患について」

TBS 「元気のカプセル」 3 月 5 日

5. その他

股関節疾患と膝関節疾患に関して患者会がそれ
ぞれ存在します。年に数回、患者会メンバーを中
心に医師による疾患の理解を深めるための講演が
行われています。

診療実績（診断群分類6桁別、2017年退院患者）

*医科点数表Kコード

傷病6桁	傷病名	件数	年齢	在院 日数	救急 搬送	紹介 あり	手術あ り症例*	診断 検査	計画的繰 り返し入 院	その他 の加療
07040x	股関節骨頭壊死、股関節症（変形性を含む）	277	64.5	22.4	3	107	275			277
70230	膝関節症（変形性を含む）	162	73.1	34.1		53	161			162
160800	股関節大腿近位骨折	120	80.2	31.4	45	54	118		3	117
70343	脊柱管狭窄（脊椎症を含む） 腰部骨盤、不安定椎	107	71.5	15.9	2	49	55	48		59
160760	前腕の骨折	57	57	3.2	1	27	57		8	49
160700	鎖骨骨折、肩甲骨骨折	41	49.4	3.8		25	40		11	30
160850	足関節・足部の骨折、脱臼	31	45.9	9.1	1	28	31		7	24
180040	手術・処置等の合併症	30	71.9	53.4	2	16	28		1	29
160720	肩関節周辺の骨折脱臼	27	65.4	5.5	2	16	27		3	24
70341	脊柱管狭窄（脊椎症を含む） 頸部	26	63.3	16.3		8	12	13		13
160820	膝関節周辺骨折・脱臼	23	61.0	24.5	4	14	22		5	18
160780	手関節周辺骨折脱臼	19	42.6	3.0	1	13	19			19
70350	椎間板変性、ヘルニア	15	60.5	11.3	1	7	8	6		9
160740	肘関節周辺の骨折・脱臼	15	36.9	6.0		9	15		3	12
07010x	化膿性関節炎（下肢）	11	66.9	44.6	1	2	10			11
160610	四肢筋腱損傷	11	45.5	6.5	1	9	11			11
160835	下腿足関節周辺骨折	11	42.5	9.8	2	5	11		5	6
70160	上肢末梢神経麻痺	8	65.6	3.0		3	8			8
160690	胸椎、腰椎以下骨折損傷（胸・腰髄損傷を含む）	8	73.0	25.5	2	5	1			8
80011	急性膿皮症	7	53.0	11.3	1	2	3			7
160620	肘、膝の外傷（スポーツ障害等を含む）	7	40.6	4.6		3	7			7
	その他の傷病	106			19	47	82	3	5	98
	計	1119	65.2	22.4	88	502	1001	70	51	998

手術（併施含む） 2017

術式	件数
人工股関節置換術	320
人工股関節再置換術	20
人工膝関節置換術	254
人工膝関節再置換術	2
その他の関節手術	40
脊椎固定術	84
椎間板摘出術	8
脊髄腫瘍摘出術	1
脊椎悪性腫瘍手術	4
骨移植術（自家培養軟骨移植術）	1
骨折観血的手術	211
人工骨頭挿入	50
四肢切断	6
靱帯断裂手術	5
骨腫瘍切除術	3
骨切り術	4
その他の手術	156
計	1169

他院からの紹介 1117

外来 789

入院（外来後入院含む） 328

脳神経外科

1. 概要、特徴、特色

2017 年 4 月 1 日から、石丸が常勤医として勤務させていただいております。外来診療のみですが、脳卒中救急に関する相談や病棟での脳卒中、頭部外傷の患者さんのコンサルテーションに対応しました。

印象深い症例として、「椎骨動脈解離」と「脳腫瘍や脳出血による頭蓋内圧亢進・脳ヘルニア」がありましたので、医局の朝会で提示させていただきました。

脳梗塞急性期の t-P A による血栓溶解療法に関して、南部MC の連携病院として 12 月から参加しております（それに伴い、石丸が i P a d にて脳卒中画像のコンサルテーションを開始しました）。

慢性硬膜下血腫の手術適応患者さんは、済生会川口総合病院に転送させていただいております。

日本脳卒中学会教育研修病院（2017 年 12 月から）

埼玉県急性期脳梗塞治療ネットワーク（S S N）、南部MC の連携病院（2017 年 12 月から）

2. スタッフ

部長

石丸 純夫 脳神経外科学会専門医
脳卒中学会専門医
リハビリテーション学会認定臨床医

非常勤

須田喜久夫 済生会川口総合病院脳神経外科
主任部長
脳神経外科専門医、脳卒中専門医
井出 光信 脳神経外科専門医

3. 診療実績

(1) 外来診療のみです

脳外科外来患者数 年間 2412 人

(脳外科紹介患者数 年間 122 人)

外来でのボトックス治療件数 5 件（2017 年 6 月から）

(2) 外部活動

第 6 回埼玉民医連学術・運動交流集会 ミニレクチャー＜C＞

「脳卒中の治療と予防」 12 月 17 日

健康祭りでの講演 「脳卒中について」 10 月 21 日

4. 教育・研修・研究活動

(1) 教育・研修

毎週火曜日 7 時からの救急症例検討会に参加。

毎週木曜日 14 時からの D 5 病棟リハビリテーションカンファレンスに参加させていただいております。

毎週水曜日 16 時からの脳卒中急性期入院リハビリの検討会に参加。

5 月から 8 月まで、研修医対象に隔週の金曜日 7 時 30 分から、脳疾患画像のレクチャーを 11 回施行。

(2) 研究

今年度は、学会研究会活動（発表）はありません。

産婦人科

1. 概要、特徴、特色

前年末から新生児の蘇生処置を要する症例が数件みられ、医師・スタッフの蘇生技術の習熟を図った1年となりました。産科は予想を超えて突然蘇生処置が必要となる科で、日頃からのトレーニングと小児科との連携が重要であり、さらに地域全体の周産期事情が改善しないと救命が困難となる場合もあることを痛感しました。母体救命に関しても病棟での学習会等を行いました。

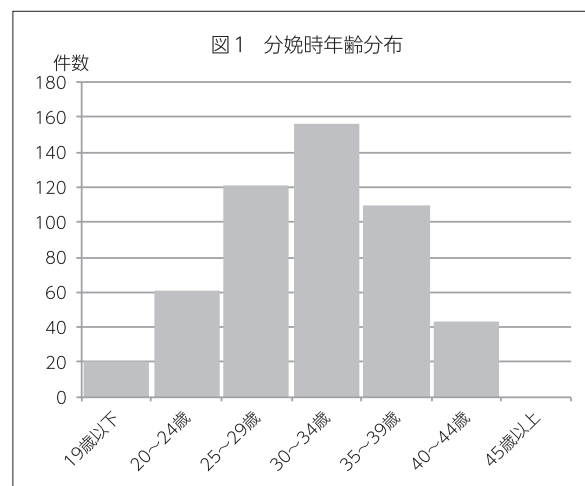
また、4月より新しい専門医制度がスタートし、自治医科大学さいたま医療センターを基幹施設とする研修プログラムに連携施設として所属し、専攻医1名の研修指導を4月から12月まで行いました。初期研修医は院内の研修医（6人）のほか、他院からも産科を中心とした研修（6人）を受け入れました。

表1 分娩数と出産年齢及び合併症

年代別分娩数	2017年
19歳以下	20
20～24歳	61
25～29歳	121
30～34歳	156
35～39歳	110
40～44歳	43
45歳以上	0
計	511
帝王切開	107
合併症妊娠	
子宮筋腫	19
精神疾患	21
甲状腺疾患	11
高度肥満	6
糖尿病	0
PIH	19
GDM	19
円錐切除後頸管縫縮	3

月50件の分娩を目指していましたが、月毎の変動もあり、511件の分娩数となりました。精神疾患合併妊娠の比率は高く、精神科と連携して母児の支援に努めました。妊娠糖尿病（GDM）症例の約2／3はインスリンを使用しており、これも内科と協力して産後の耐糖能まで評

価を行ってきました（表1）。分娩時年齢は35歳以上の方が約1／3となっています（図1）。



また、社会的ハイリスク妊娠の症例も多く、保健センター・子育て相談・生活福祉課などとカンファレンスを開いたり、個別に担当スタッフが丁寧に対応を続け育児支援へつなげる取り組みを行ってきました。社会的ハイリスク妊娠への関わり方を検討しデータとしてまとめるため、1年間小児科・産婦人科・精神科合同の委員会（team POPS）を運営してきました。

母体搬送については7件と減少しましたが、コーディネートシステムを通じて搬送先を探していただくこともあり、地域の周産期事情の厳しさを

表2 母体搬送の週数及び紹介先

母体搬送		7
	～22週	0
	23～27週	0
	28～31週	2
	32～34週	5
	35週以上	0
搬送先		
	川口医療センター	6
	自治医大さいたま医療センター	0
	埼玉医科大学総合医療センター	0
	済生会川口総合病院	1
	さいたま日本赤十字病院	0
	深谷日本赤十字病院	0
	埼玉病院	0

実感しています (表 2)。

出生前診断の希望者は増加していますが、NIPT 以外のトリプルマーカーや超音波での精密検査など選択枝が広がっており、正確な数の把握が困難となっています。検査の持つ意味と限界についてお話ししつつ、出た結果に対して寄り添っていくよう努力してきました (表 3)。

表 3 出生前診断紹介数

出生前診断 (重複あり)		
	羊水検査	1
	超音波検査	1
	NIPT	9

手術については 189 件で、病院全体の救急患者受け入れ増加に伴い、緊急手術も 26 件ありました (表 4)。

表 4 婦人科手術

入院・手術室施行 (帝王切開除く)	189	うち紹介67
子宮筋腫	81	(帝王切開時 9 含む)
卵巣腫瘍・含内膜症 (うち腹腔鏡)	46 (9)	
異所性妊娠 (うち腹腔鏡)	6 (1)	
頸部異形成・上皮内がん	36	
子宮脱	7	
その他	22	

表 5 ホルモン療法患者数

低用量ピル	3ヵ月以上
トリキュラー	63
オーソ777	0
ルナベル・フリウェル	161
計	
エストラーナテープ	117
メノエイドコンビパッチ	45
ディナゲスト	68
ミレーナ	34
GnRH	3ヵ月以上
リュープリン	42
ナサニール	62

表 6 がん検診

子宮頸部	5133
NILM	5069
ASC-US	34
ASC-H	5
LSIL	6
HSIL	16
AGC	2
SCC	1
子宮体部	3785
陰 性	3647
疑陽性	7
陽 性	2
材料不適	129

表 7 悪性腫瘍紹介数

紹介先	例数
国立がん研究センター中央病院	12
がん・感染症センター都立駒込病院	8
埼玉県立がんセンター	6
獨協医科大学埼玉医療センター	4
がん研有明病院	3
慶應義塾大学病院	3
自治医科大学附属さいたま医療センター	2
帝京大学医学部附属病院	2
東京大学医学部附属病院	2
小豆沢病院	1
聖路加国際病院	1
千葉大学医学部附属病院	1
東京医科歯科大学医学部附属病院	1
日本医科大学付属病院	1
悪性腫瘍	例数
子宮体がん	15
子宮頸がん	12
卵巣がん	14
卵巣がん (境界悪性)	1
卵管がん	1
骨盤内腫瘍	1
子宮体がん・卵管がん疑い	1
子宮肉腫	1
乳がん、転移性卵巣がん	1
総計	47

子宮内膜症・月経困難・過多月経については、低用量ピル・IUS（ミレーナ[®]）・黄体ホルモン製剤の使用が増加し、ジェノゲストはジェネリックが解禁となり、使用しやすくなりました。ホルモン補充療法も増加傾向です（表5）。

子宮がん検診は、施行数はほぼ前年と同数で、頸部上皮内病変の疑い61件、子宮頸がんの疑い1件、頸部腺病変疑い2件、子宮体がんの疑いが2件ありました（表6）。進行がんの可能性が高い場合には高次医療機関へ紹介していますが、受診までの不安を軽減できるよう地域連携課とも協力してスムーズな受診となるよう心がけています（表7）。紹介した後も治療後のフォローアップや緩和医療のために再診される患者様も増えています。

初期研修医の中には当院で産婦人科医療を担う希望者も出てきており、地域の中で必要とされる産婦人科医療を引き継いでいけるよう引き続き努力していきたいと思えます。

2. スタッフ

部長

市川清美 日本産科婦人科学会産婦人科専門医
検診マンモグラフィ読影認定医師
母体保護法指定医
日本母体救命システム普及協議会
ベーシックコースインストラクター
PCキューブ受講
新生児蘇生法講習会Aコース受講
ALSOプロバイダーコース受講

副部長

榎本明美 日本産科婦人科学会産婦人科専門医
日本専門医機構産婦人科専門医
新生児蘇生法講習会Aコース受講

医長

芳賀厚子 日本産科婦人科学会産婦人科専門医
日本専門医機構産婦人科専門医
日本産科婦人科学会専門研修指導医
日本臨床細胞学会細胞診専門医

母体保護法指定医

日本母体救命システム普及協議会

ベーシックコース修了

新生児蘇生法講習会Aコース受講

医員

伊藤浄樹 日本産科婦人科学会産婦人科専門医
日本専門医機構産婦人科専門医
ALSOプロバイダーコース受講

李 冬平 新生児蘇生法講習会Aコース受講

非常勤

竹内育代 日本産科婦人科学会産婦人科専門医
岡野滋行 日本産科婦人科学会産婦人科専門医
日本臨床細胞学会細胞診専門医

鎌田美保 日本産科婦人科学会産婦人科専門医

上野紀子 日本産科婦人科学会産婦人科専門医

藪田直樹

池谷幸太郎 日本産科婦人科学会産婦人科専門医

堀内 功 日本産科婦人科学会産婦人科専門医
(自治医科大学さいたま医療センターより当直支援)

春名佑美 日本産科婦人科学会産婦人科専門医
(同上 3月まで)

嘱託

神谷 稔 日本産科婦人科学会産婦人科専門医
矢口輝仁 日本産科婦人科学会産婦人科専門医

3. 診療実績

表1 分娩数と出産年齢及び合併症

表2 母体搬送の週数及び紹介先

図1 分娩時年齢分布

表3 出生前診断紹介数

表4 婦人科手術

表5 ホルモン療法患者数

表6 がん検診

表7 悪性腫瘍紹介数

4. 教育・研修・研究活動

定例カンファレンス（周産期1回／月 周産期・

精神科 1 回／月 術前 2 回／月 病棟 1 回／週)

(1) 学術活動

- ・「子宮内膜症・子宮腺筋症の病態と治療」

川口薬剤師会学術講演会 2017 年 5 月 16 日

講演者 市川清美

- ・「分娩後雷鳴様頭痛を発症し、可逆性脳血管攣縮症候群 (reversible cerebral vasoconstriction RCVS) と診断された 1 例」

第 92 回埼玉産科婦人科学会・埼玉県産婦人科
医会平成 29 年度後期学術集会 2017 年 11 月
11 日

発表者 李 冬平

(2) 社会的活動

うぶごえ学級、孫と一緒にひろば（祖父母の育児
支援）、命の授業

- ・「女性と子供の貧困という側面からみた私たち
の役割―排除か・包摂か―」

埼玉民医連 看護学会 2017 年 1 月 28 日

講演者 芳賀厚子

- ・「卒後 3 年目の皆様へ 女性と子どもの貧困か
らみえてくる私たちの課題」

医療生協さいたま 看護職員卒後 3 年目研修
2017 年 6 月 1 日

講演者 芳賀厚子

- ・「女性と子どもの貧困 ―こども食堂の取り組み―」

やまばと保育園保護者会 2017 年 7 月 8 日

講演者 芳賀厚子

泌尿器科

1. 診療実績

2018年3月現在、常勤医師は勤務しておりません。非常勤医師により支援をいただき、外来診療を実施しております。

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
患者数	1,802	1,663	1,204	850	909	952	961
月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	
患者数	1,043	1,020	971	1,050	1,038	13,463	

1日平均外来受診人数 48人

診療実績（診断群分類6桁別、2017年退院患者）

*医科点数表Kコード

傷病6桁	傷病名	件数	年齢	在院日数	救急搬送	紹介あり	手術あり 症例*	診断検査	その他の加療
110070	膀胱腫瘍	2	71.5	6.0	0	2	2	0	2
110080	前立腺の悪性腫瘍	22	72.8	2.3	0	8	0	22	0
11012x	上部尿路疾患	13	53.2	2.0	0	1	13	0	13
11013x	下部尿路疾患	3	78.0	1.7	0	0	2	0	3
11022x	男性生殖器疾患	3	50.0	5.0	0	0	3	0	3
110310	腎臓または尿路の感染症	1	67.0	6.0	0	0	0	0	1
180040	手術・処置等の合併症	1	79.0	5.0	0	1	1	0	1
	計	45	65.9	2.6	0	12	21	22	23

手術（併施含む）

術式	件数
膀胱悪性腫瘍手術（経尿道的手術）（その他のもの）	4
陰嚢水腫手術 その他	3
体外衝撃波腎・尿管結石破碎術（一連につき）	15

他院からの紹介 297

外来 296

入院（外来後入院含む） 1

皮膚科

1. 概要 特徴、特色

協同病院皮膚科には常勤医 1 名、非常勤医 6 名が勤務しており、皮膚科としては県南最大規模の病院のひとつです。この 7 名で平日午前中と金曜日午後の一般診療を担当し、平日午後には手術や予約診療を行っています。

当科では通常の皮膚疾患をしっかり診断し治療することを基本方針として診療をしています。

診療疾患は多岐にわたるため、各種血液検査や病理検査に加えて、皮膚エコーやMRI、CTなどの画像診断を有効に使い、まず確定診断を正確にすることを目標としています。治療は通常の内服療法、外用療法の他、手術療法や紫外線治療なども施行し効果をあげています。

また、外来にはQスイッチアレキサンドライトレーザーがあり、健康保険診療としては太田母斑や異所性蒙古斑に、自費診療としては老人性色素斑に著効しています。

基本的に健康保険診療で治療していますが、いくつかの自費診療を取り入れており、患者様のQOL向上に有益と考えています。

2. スタッフ

部長

伊藤 理恵 日本皮膚科学会認定専門医
指導医、医学博士

医長

田中 純江 日本皮膚科学会認定専門医
非常勤

六波羅詩穂 日本皮膚科学会認定専門医
上田 周 日本皮膚科学会認定専門医
関 詠姿 日本皮膚科学会認定専門医
笹平 摂子 日本皮膚科学会認定専門医
原藤 緑

3. 診療実績

(1) 外来診療

平日午前中は2～3人体制で、金曜日午後は1診体制で一般外来を行っています。平日午後は予約制で診療、手術、処置、美容関係の自費診療などを行っています。

2017年の皮膚科延べ外来受診数は20,766名であり、1日平均外来受診人数は73名でした。受診内容は湿疹アトピー性皮膚炎群、皮膚細菌感染症、真菌感染症、ウイルス性皮膚疾患、尋常性瘡瘡、自己免疫性皮膚疾患、熱傷、各種爪疾患、良性悪性皮膚腫瘍など多岐にわたっています。

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
患者数	1,531	1,549	1,740	1,670	1,760	1,902	1,837
月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	
患者数	1,893	1,820	1,686	1,651	1,727	20,766	

(2) 手術

毎週月曜日、水曜日、金曜日の午後に行っています。2017年の手術件数は320件で、局所麻酔下での手術が主体です。9割以上が日帰り外来手術ですが、入院手術も受けています。内容は表皮囊肿、脂肪腫、母斑などの良性腫瘍切除術が多く、陥入爪根治術、皮膚悪性腫瘍切除術などが続きます。

(3) 紫外線治療

当科には長波長紫外線治療器(PUVA、UVB)とナローバンド中波長紫外線治療器(エキシマライト)があり、尋常性乾癬、アトピー性皮膚炎、掌蹠膿疱症などに対して光線治療を行い良好な効果をあげています。

〈自費診療部門〉

大部分は一般診療中に施行していますが、イオン導入とケミカルピーリングは木曜日と金曜日の午後に予約にて施行しています。

①アンチエイジングを目的としたレーザー治療(年間約144件)やイオン導入、ケミカルピーリング(年間約89件)、美白剤の処方など

②男性型脱毛症への内服治療

③円形脱毛症などに対する局所免疫療法（S A D B E 治療）

④陥入爪への超弾性ワイヤーによる矯正治療

⑤ピアスホール作成

などを施行しています。

4. 教育、研修

（1）教育・研修

水曜日の外来診療後に臨床カンファレンスを行っています。当院は皮膚科専門医の一般研修施設です。希望があれば初期研修医及び後期研修医の皮膚科研修も受け入れています。

眼 科

1. 診療実績

外来診療

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
患者数	272	337	395	462	479	569	503
月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	
患者数	550	557	577	630	626	5,957	

2018年3月現在、常勤医師は勤務しておりません。非常勤医師による輪番体制で外来診療を実施しております。

1日平均外来受診人数 21人

耳鼻咽喉科

1. 診療実績

外来診療

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
患者数	825	850	976	855	867	859	783
月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	
患者数	922	827	850	863	823	10,300	

2018 年 3 月現在、常勤医師は勤務しておりません。東京大学医学部附属病院の耳鼻咽喉科より支援をいただいて、輪番体制で外来診療を実施しております。

1 日平均外来受診人数 36 人

精神科

1. 概要、特徴、特色

埼玉協同病院に精神科が開設されたのは、1986 年です。精神科非常勤医師 1 名の体制で始まり、1993 年からは常勤化され、20 年以上が経過しました。現在は精神科常勤医師 2 名、非常勤医師 1 名の体制となっています。

日本の精神医療は、歴史的に単科精神病院での入院治療を中心に展開されてきましたが、1970 年代以降は地域の中で生活しながら治療を受けることが重要視されるようになってきています。その結果、地域の中に数多くの精神科クリニックが開設され、以前と比べ精神科医療は患者さんにとって大変利用しやすいものとなっています。その一方で、総合病院における精神科医療は大きく広がることはなく、むしろ最近は総合病院で働く精神科常勤医師数は先細りの傾向にあり、埼玉県南部地域でも常勤医師が複数いる病院は非常に少ないのが現状です。

当院は総合病院に開設された精神病床を持たない精神科として、以下のような特徴をもった医療を展開しています。

まず第一に、当院が地域の第一線の医療機関であることから、高齢者から若い方(概ね高校生以上)まで幅広い年齢層の患者を受け入れています。精神科入院医療を必要とするような重症例は受け入れることはできませんが、認知症、うつ病、不安障害、慢性期の統合失調症、アルコール依存症など幅広い疾患を受け入れています。

第二には、身体疾患の治療をしながら精神科医療を提供できることも特徴です。特に高齢期には身体疾患に加え、認知症やうつ状態の合併も多く、こころと体の問題を総合的に診ていくことで質の高い医療が提供できます。

第三には、最近は出産子育ての過程で精神的に

不安定となる方や、あるいは精神疾患をもともと抱える中で出産子育てをする方も増えてきており、産婦人科、小児科などとも連携をとりながら家族全体の生活を支援していくことも大切な活動となっています。

前記のような特徴を生かし発展させるために、地域住民、他の医療機関、行政、地域の福祉施設などとの連携を強める活動も行っています。

2. スタッフ

部長

雪田 慎二 日本精神神経学会認定専門医
(指導医)
日本総合病院精神医学会特定指導医
精神保健指定医
一般病院連携精神医学特定指導医

医長

荻野マリエ 日本精神神経学会認定専門医
(指導医)

非常勤

堀内 慶子 日本精神神経学会認定専門医
精神保健指定医

3. 診療実績

外来診療 : 月～金で再来1～2診体制。新患外来は別枠で実施。新患は年間約140例。

精神科デイケア: 月・水・金の週3回実施。

リエゾン活動: 身体科入院患者への精神科医療の提供。緩和ケアチーム回診。認知症ケアチーム回診。リエゾンチーム回診。

緩和ケア病棟: 病棟スタッフとして診療。

被ばく相談外来: 週1回。放射線被ばくによる健康問題の相談援助。

4. 教育・研修・研究活動

精神科多職種カンファレンス (週1回)

精神科抄読会 (週1回)

地域の社会復帰施設との合同カンファレンス (1回/2ヵ月)

5. その他

地域での講演活動 (認知症・うつ病・統合失調症など精神障害に関する啓発的講演、被爆者医療・放射線被ばくによる健康影響等についての講演)

病理診断科

1. 概要 特徴、特色

常勤医 1 名と非常勤医 3 名の病理医が診断を行っています。難しい症例は東京医科歯科大学より週 1 回指導をしていただき、慎重に最終診断しております。内視鏡の病理診断については、日本消化器内視鏡学会専門医にも診断に加わっていただき精度の向上に努めております。

細胞診断では日本臨床細胞学会で認定を受けた 5 名の細胞検査士とともに診断を行っています。特に婦人科細胞診では、産婦人科臨床医でもある細胞診専門医との緊密な協力の下に診断にあたっています。

2. スタッフ

病理部長

石津 英喜 日本病理学会専門医
日本臨床細胞学会専門医
日本内科学会総合内科専門医

産婦人科病棟医長

芳賀 厚子 日本臨床細胞学会細胞診専門医
日本産科婦人科学会産婦人科専門医
日本専門医機構産婦人科専門医
日本産科婦人科学会専門研修指導医
母体保護法指定医
日本母体救命システム普及協議会
ベーシックコース修了
新生児蘇生法講習会 A コース受講

非常勤

大石 克巳 日本内科学会総合内科専門医
日本消化器内視鏡学会消化器
内視鏡専門医
北野 元生 日本病理学会口腔病理専門医
江石 義信 日本病理学会専門医

3. 診療実績

検体数の推移

年	2010年	2011年	2012年	2013年
解剖数	13	16	14	8
生検数	7,097	6,948	6,989	7,138
細胞診	7,859	7,460	6,937	6,982
年	2014年	2015年	2016年	2017年
解剖数	9	12	20	8
生検数	7,136	6,147	5,955	5,930
細胞診	6,923	7,405	7,503	6,436

4. 教育・研修・研究活動

(1) 教育・研修

認定施設：日本病理学会研修登録施設、日本臨床細胞学会認定施設

病理科内での症例検討会：週 1 回

消化器カンファレンス：週 1 回

C P C (臨床病理検討会)：医局主催で年 5 回程度。

乳腺カンファレンス：週 1 回

5. その他

当院の特徴として病理診断管理加算を算定するために病理診断以外の勤務を制限する体制はとっておりません。病理専門医であっても当直、外来、内視鏡検査などをしながら病理診断管理加算以上の貢献ができる勤務体制や、病理診断をしながら臨床能力も高め続けることのできる病理医の養成に努めています。

糖尿病内科

1. 概要、特徴、特色

糖尿病領域を中心とした専門的診療を行っています。1型糖尿病、2型糖尿病、妊娠糖尿病を含め、各種病態患者の診療を行い、健康寿命の延伸を治療目標にしています。糖尿病を併発している外科領域の患者の血糖コントロールについても、連携をしています。他の医療機関との連携もあって、紹介患者の診療にあたっています。

患者会活動も行っており、糖尿病教室、糖尿病協会発行の「さかえ」を読む会を行っており、コメディカルスタッフと協同して患者教育にも努めています。

2. スタッフ

糖尿病専門外来、糖尿病初診外来、はじめ外来、フットケア外来、外来栄養指導、糖尿病透析予防指導外来を行っています。

科長

村上 哲雄 日本糖尿病学会研修指導医
日本糖尿病学会専門医
日本内科学会認定内科医

医長

島村 裕子 日本内科学会認定内科医

医員

高橋きよ子 日本糖尿病学会研修指導医
日本糖尿病学会専門医
日本内分泌学会内分泌代謝科
(内科) 専門医
日本内分泌学会内分泌代謝科指導医
日本内科学会認定内科医

関口由希公 日本糖尿病学会専門医

浅川 友美

非常勤

清水 縁 日本糖尿病学会研修指導医

日本糖尿病学会専門医

糖尿病学会認定研修指導医3名。糖尿病学会専門医4名。

院内CDEJ (Certified Diabetes Educator of Japan) 12名

3. 診療実績

(1) 外来診療 (患者数 2017 年 12,862 人)

1) 糖尿病外来を予約外来として行っており、初診外来で他の医療機関からの紹介患者、および院内からの依頼患者の診療にあたっています。また、妊娠糖尿病患者、糖尿病合併妊娠の患者の管理も行っています。

2) 糖尿病教育、糖尿病教室も含めての、“はじめ外来”を行っており、診察も並行して行い、合併症の評価もしながら指導しています。また、はじめ外来ではカンパセーションマップ (会話のための地図) を用いての患者教育、栄養指導、薬の指導も行っています。

3) インスリン導入は外来で行うことが多く、糖尿病外来でのインスリン使用患者数は年間 848 名 (うち 75 歳以上 231 名) でした。また、インスリン注射の手技の再チェックを必要時行っています。

4) GLP-1 注射薬 (ビテュリオン、ビクトーザ、リキスミア、バイエッタ、トルリシティ) も導入しています。

5) CSII (持続皮下インスリン注入療法) も行っています。

6) CGMS (持続血糖モニタリングシステム) も血糖日内変動を詳細に把握できる点で優れており、入院、外来で施行しています。

7) フットケアも実施しており、足の管理、足病変の早期発見に努めています。

8) 糖尿病透析予防指導管理を行い、糖尿病腎症進展の防止に努めています。2012 年 10 月より開始して、診察、看護指導、栄養指導を包括的に行い、2017 年中では 40 名指導しました。

9) 糖尿病患者会、および日本糖尿病協会発行の「さ
かえ」を読む会を行って啓発を行っています。

(2) 病棟診療

1) 糖尿病コントロール入院にて食事療法、薬物
療法、運動療法を含めて教育も行い、43 名がパ
スに則りコントロールを行いました。

・ 11 月 9 日 川口 DM カンファレンス

羽染知子「若年 2 型糖尿病患者の食事指導」

・ 12 月 17 日 第 6 回埼玉民医連学術・運動交流
集会

羽染知子「若年 2 型糖尿病患者との関わり～食
事相談で経験した 1 症例～」

4. 教育・研修・研究活動

(1) 教育

1) 毎週 1 回糖尿病カンファレンスを医師、コメ
ディカルスタッフで行っており、症例数は 2017
年は 78 名であり、患者の日常生活環境、問題
点などについて検討し、指導のポイントなどに
ついて討論を行い、患者の Q O L 向上に努めて
います。

2) 毎月 1 回糖尿病事務局会議を行い、新しい情
報の検討、診療業務の改善、向上に努めています。

(2) 研究

1) 糖尿病合併症進展因子についての検討

2) 糖尿病腎症の進展予防に対する、新しい糖尿
病治療薬の効果についての検討

(3) その他

1) 学会活動

日本糖尿病学会年次学術集会、日本糖尿病学会
関東甲信越地方会
「糖尿病学の進歩」

2) 研究会活動

・ 5 月 18 日 第 60 回糖尿病学会年次学術集会
浅川友美「週 1 回内服製剤に対する糖尿病患者
の意識調査及び当院における他剤からオマリグ
リプチンへの切り替え投与経験」

・ 10 月 19 日 第 5 回南埼玉 C G M カンファレン
ス
浅川友美「C G M データから考える血糖コント
ロール入院のあり方」

・ 5 月 25 日 川口 DM カンファレンス
箭川正子「当院における糖尿病眼手帳の活用方
法と眼科受診推奨の実際」

麻酔科

1. スタッフ

常勤医：西川 毅、黒羽根朋子、金子吾朗

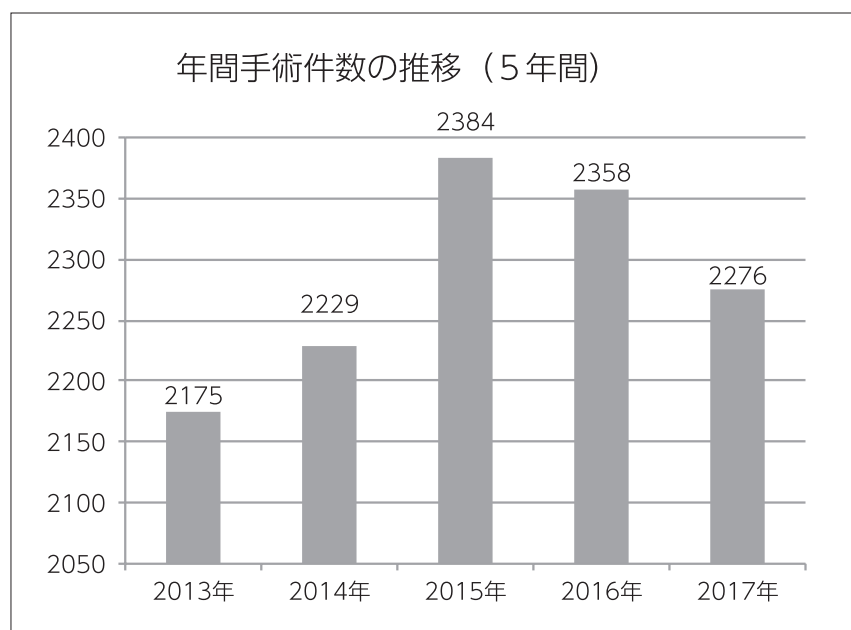
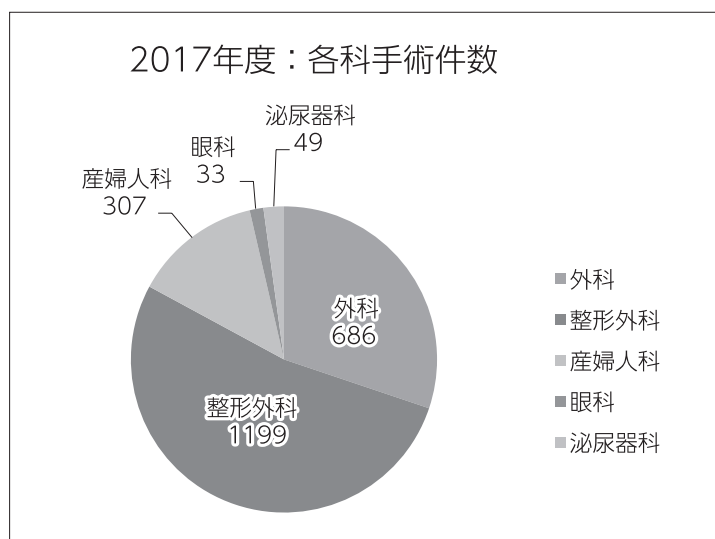
非常勤：岩切裕子、畔柳 綾 他7名

初期研修医は適宜受け入れており、基本1ヵ月を金子先生がメインで指導しています。

2. 日常診療

(1) 手術室

2017年度の総手術件数は2,276件、そのうち麻酔科管理は2000件（87%）でした。



症例数の年次変化は下のグラフに示す通りです。金子吾朗先生の復帰により、緊急帝王切開の待機が可能となり、また、各種ブロック麻酔も盛んになってきました。

(2) 外来診療

1) 麻酔科外来

2006年5月より始まった外来は、術前診察目的で月、土の週2日行ってまいりました。外科、眼科外来の間借りから出発した診療は、F棟完成時にその2階を使わせていただけるようになりました。3診あって、うち2診で看護師の問診、残り1診で医師の診察です。2017年度の総外来患者数は1,553人でした。

2) ペインクリニック

2016年4月から週1回水曜日に女子医大から畔柳先生にお越しいただき、金子先生と二人で診察を行っています。対象は痛み全般です。三叉神経痛、頸椎症、頸椎ヘルニア、肋間神経痛、腰部脊柱管狭窄症、腰椎ヘルニアなど。薬物治療、局所麻酔によるブロック、透視下ブロック、高周波熱凝固治療等施行しています。

2017年度の外来者数は717名でした。

(3) 術前術後回診

予定手術の術前回診のほとんどは麻酔科外来で済まされていますが、緊急、準緊急症例は病棟訪問することになります。

